

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2024年1月30日 火曜日

Microsoft Entra IDのトークンURLを直接呼び出してアクセス・トークンを取得する

Microsoft Entra IDで保護されたリソースの場合、APEX_WEB_SERVICE.MAKE_REST_REQUESTの引数p_token_urlにEntra IDのトークンURLを指定することで、APIの認証を行うことができます。

アクセス・トークンを発行する手順は、Microsoftの次のドキュメント「[最初のケース:共有シークレットを使ったアクセス トークン要求](#)」で説明されています。

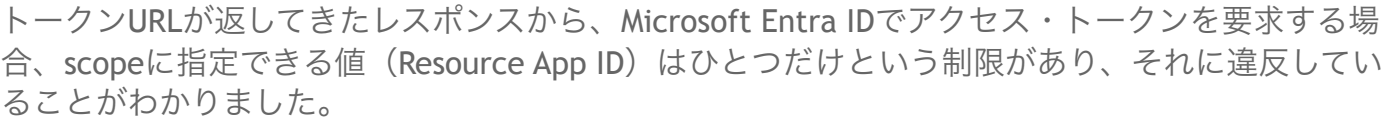
AzureのAPIをAPEX_WEB_SERVICE.MAKE_REST_REQUESTで呼び出したときに、HTTPステータス・コード 401 Unauthorizedが返されると、APIの認証に関わる値のどれが間違っているのか、APEX_WEB_SERVICE.MAKE_REST_REQUESTのエラーから確認するのは困難です。

そのため、以下のPL/SQLコードでトークンURLを直接呼び出し、アクセス・トークンを取得してみます。

テナントID、アプリケーション（クライアントID）、スコープ、クライアント・シークレットのどれに間違いがあるのか、トークンURLが返すレスポンスから確認できます。

```
declare
    l_token_url    varchar2(400);
    l_tenant       varchar2(80);
    l_response     clob;
    l_parm_names   apex_application_global.vc_arr2;
    l_parm_values  apex_application_global.vc_arr2;
begin
    /*
     * Microsoft Entra IDを呼び出してアクセス・トークンを取得する。
     * ref https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory/verifiable-credentials/get-
     */
    l_tenant       := 'テナントID';
    l_token_url     := 'https://login.microsoftonline.com/' || l_tenant || '/oauth2/v2.0/token';
    l_parm_names(1) := 'client_id';
    l_parm_values(1) := 'アプリケーション(クライアント)ID';
    l_parm_names(2) := 'scope';
    l_parm_values(2) := 'API/アクセス許可のResource App ID'; /* 指定可能なスコープは1つだけ */
    l_parm_names(3) := 'client_secret';
    l_parm_values(3) := 'クライアント・シークレット';
    l_parm_names(4) := 'grant_type';
```

microsoft-entra-id-client_credentials.sql hosted with ❤️ by GitHub

[view raw](#)

認証関連のエラーはデバッグが面倒なので、それを少し助ける方法を紹介しました。

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 14:56

共有

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
